

## ライトノベルにおける文章表現に関する研究

山口 みず紀

「ライトノベル」という呼称は 1980 年代後半にパソコン通信サービス NIFTY-Serve の SF フォーラム内で使用されたことが始まりとされている。当時を代表するライトノベル作品とされる『ロードス島戦記』が 1988 年に、『スレイヤーズ!』が 1989 年に刊行された。その二作品が刊行された富士見ファンタジア文庫と角川スニーカー文庫はライトノベルとしての原初のレーベルとみなされ、ライトノベルを牽引したと評価されている。その後の 1988 年には電撃文庫から『ブギーポップは笑わない』が刊行され、この作品に類似する作品を増加させる傾向を生み出し、それまで中高生向けとされてきたライトノベルの読者層を拡大するといった変化を生み出した。ライトノベルの文章表現という観点からすれば、このことはライトノベルにおける語彙や文章表現の幅を広げたと考えられる。

ライトノベルは 2000 年代の通称「ライトノベルブーム」から、中学生や高校生を中心に大人まで幅広い年齢層の人々を読者に取り込み、小説のジャンルの 1 つとして確立したとされる。毎日新聞社が毎年行っている学校読書調査でも 2017 年に「ライトノベルを読むか」という調査を行われているほか、2018 年 3 月には東洋経済新報社のニュースサイトに「意外と知らない『ライトノベル』ブームの現在」という記事が掲載されるなど、マスメディアでのライトノベルについての記事が散見され、現在において社会的関心も高いといえる。

先行研究にはライトノベルをサブカルチャーとして捉え、メディアミックスの動向やその文化の担い手である若者のあり方に焦点を当てた研究と、ライトノベルを文学ジャンルの 1 つとして、他ジャンルとの比較などによってその特徴を論じているものがある。ライトノベルにおける表現については、ライトノベルを通して現在の言語文化を考察しようとしたメイナード (2012) がある。しかし、これまでライトノベルの特徴を掴むために行われた研究では、質的分析をしているものが多い。そのため本研究では、質的分析に加えて量的分析を加えた二つのアプローチからライトノベルの特徴を明らかにすることを目的とする。

本研究において定量的分析では統計分析フリーソフト「R」の RMeCab を使用し、選出したライトノベル作品とそれ以外の作品の計 6 作品に対して形態素解析を行い、その結果を用いて、①それぞれの作品における品詞等の構成比をみる方法、②語彙の豊富を示す指標とされる CTTR をみる方法、③MVR という指標を用いて文章の特徴をみる方法、④一文の長さと段落の長さを測る方法を使用した。質的分析では、①類似した場面の比較をする方法、②使用されている擬音語の比較をする方法を取っている。

分析の結果からは、これまで指摘されてきたようなライトノベルとしての特徴に加え、ライトノベルが読者に対し、視聴覚的アプローチを行っていることをその特徴として明らかにした。それにはメディア環境のマルチメディア化することが背景にあると考えられる。

(指導教員 原 淳之)